

井田友平年譜

- 明治22年(1889) 3月 17日、弥藤吾村(現妻沼町弥藤吾)に父井田定吉・母フクの長男として生まれる
- 明治33年(1900) 3月 妻沼尋常小学校弥藤吾分教場(現福寿院)卒業
- 明治37年(1904) 3月 妻沼村外八ヶ村組立幡羅高等小学校卒業
- 明治37年(1904) 4月 上江袋能泉寺塾にて戸田英龍和尚につき、漢学等を学ぶ
- 明治39年(1906) 3月 上京し、石けん雑貨行商の見習いとなる(17歳)
- 明治43年(1910) 3月 東京市本所区緑町(現墨田区)に井田京栄堂(資本金37円)を設立
- 大正6年(1917) 5月 本所区緑町2丁目に工場建設。メヌマポマードの製造・販売開始(28歳)
- 大正12年(1923) 9月 1日、関東大震災に被災(34歳)
- 大正13年(1924) 3月 京栄堂卸部を弟幸八郎の井田両国堂に移籍
- 昭和2年(1927) 3月 大阪東区和泉町に支店開設
- 昭和5年(1930) 3月 **本所区議員に就任**
- 昭和6年(1931) 東京市墨田区立川2-10-7に工場新設
- 昭和8年(1933) **東京市議会議員に就任(3期、~昭和18年6月)**
- 昭和9年(1934) 3月 **本所区議会議長に就任(~11年1月)**
- 昭和16年(1941) 6月 紺綬褒章受賞
- 昭和18年(1943) 9月 **東京都議会議員に就任(~昭和21年4月)**
- 昭和19年(1944) **東京都議会議員参事会員に就任**
- 昭和20年(1945) 3月 戦災により工場・店舗焼失
- 昭和20年(1945) **警視庁警務委員長に就任**
- 昭和21年(1946) 3月 千代田区富士見町の仮営業所で生産を再開
全国に代理店制度を設ける
- 昭和21年(1946) 4月 **日本自由党より埼玉県第3区に出馬、衆議院議員に当選(第1次吉田茂内閣時・57歳)**
- 昭和23年(1948) 「株式会社メヌマ」に改組、取締役社長に就任
東南アジア、沖縄、太平洋諸島に輸出開始
- 昭和25年(1950) 東京都化粧品工業会副会長に就任
- 昭和27年(1952) 5月 東京都化粧品工業会会長に就任(63歳)
- 昭和29年(1954) 2月 墨田区立川の工場跡に新工場及び事務所新築
- 昭和32年(1957) 11月 井田友平頌徳碑、聖天山境内に建立、撰文衆議院議員石坂養平
- 昭和32年(1957) 11月 15日、弥藤吾の居宅を妻沼町に寄贈、移築(後の井田記念館)
- 昭和33年(1958) 1月 弥藤吾の有志が井田報徳会を結成、友平胸像を建立
- 昭和35年(1960) 3月 21日、妻沼町名誉町民第1号に推挙される(71歳)
- 昭和35年(1960) 5月 石造書庫を妻沼町役場に寄贈
- 昭和39年(1964) 「財団法人井田育英会」を設立、私財1億円を拠出(75歳)
- 昭和40年(1965) 3月 脳血栓で倒れる
- 昭和40年(1965) 5月 17日、勲四等瑞宝章受章
- 昭和40年(1965) 10月 31日没、東京都多磨霊園に埋葬される(76歳)
従五位に叙せられる



緑字・・・メヌマポマード、経営に関すること
赤字・・・政界に関すること
青字・・・故郷妻沼と関わること

表紙のかるたは、昭和62年作成「妻沼郷土かるた」、高橋聡(当時、長井小学校)の作品

井田友平関連地図



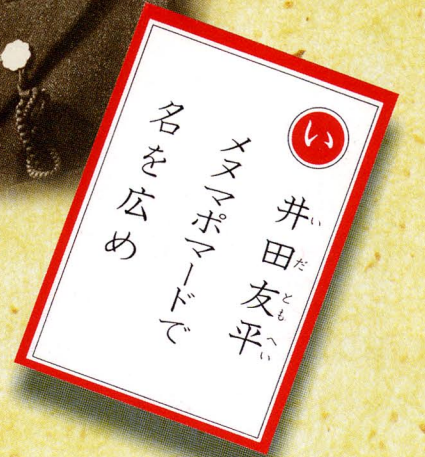
◆◆◆◆◆ お問い合わせは ◆◆◆◆◆

熊谷市立江南文化財センター
TEL 048-536-5062 FAX 048-530-4575
〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

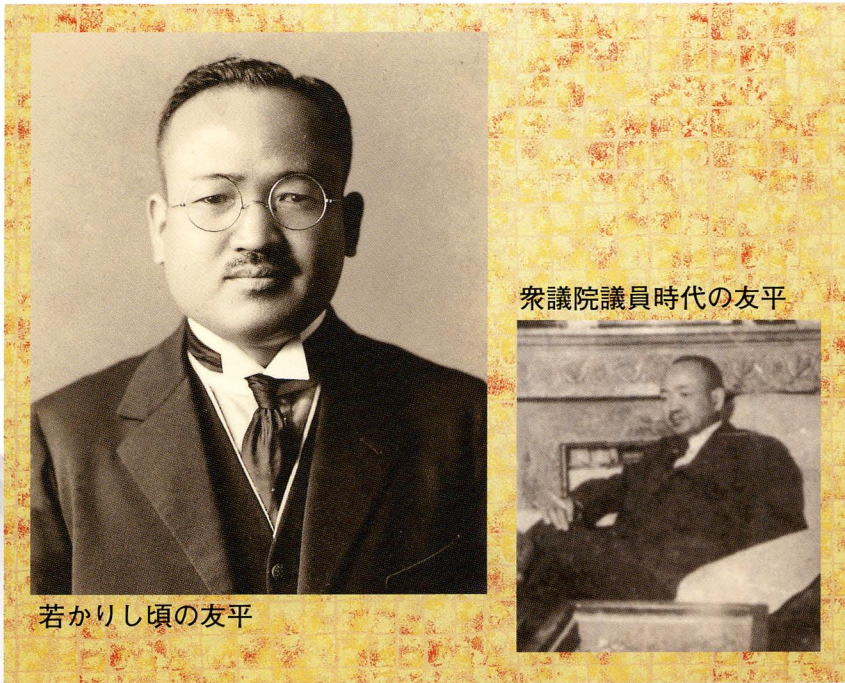


井田友平

名誉町民第一号 ポマード王



井田友平略伝



■ 生い立ち

井田友平は、明治22年3月17日に弥藤吾村で農業を営む父井田定吉、母フクの長男として生まれました。

学問好きだった友平は、妻沼尋常小学校弥藤吾分教場（現福寿院）を卒業後、妻沼村外八ヶ村組合立幡羅高等小学校（観清寺学校）に入学します。当時この学校で学んだ卒業生からは、

友平をはじめ宮本・石坂・綾川の4代議士を輩出しました。友平



は家業を手伝いながら苦学して卒業しました。

家庭の事情で中学校に進めなかった友平は、上江袋能泉寺塾で戸田英龍和尚について漢学等を修めました。



■ メヌマポマードの創始

友平は、17歳の春、同郷の先輩を頼りに上京し、石けん雑貨行商の見習い奉公に入りました。3年間勤めた後、明治43年3月、東京本所緑町で井田京栄堂を設立し石けん雑貨卸商として独立しました。夜遅くまで行商に精を出し、事業を日増しに拡大させていきました。

やがて、当時まだ高級とされていたポマードを、低価格の国産品として売り出すための開発に取り掛かります。国民の生活水準の向上に伴い、化粧品の需要が急増すると読んだのです。大正6年、「メヌマポマード」の開発に成功、すぐに工場を建設し、製造販売を開始しました。

輸入ポマードには勝てないとの批判の声とは裏腹に販売直後から大盛況を呼びました。



■ ポマード王に君臨

従来の輸入ポマードは鉱物性調髪油を使用したベタツキ感が不評でした。メヌマポマードは純植物性の調髪油を使いさらとしたつけ心地にし、若者のニーズに応えました。その後、メヌマポマードは若者の話題となりブランド品として国内シェア75%を占め、ポマードの代名詞のように呼ばれるようになりました。

大正12年の関東大震災、昭和20年の東京大空襲により工場・店舗等を失いましたが、そのつど再建を果たし、隆盛をとり戻しました。戦後には社名を株式会社メヌマに改めました。昭和28年には、テレビ放送において服部時計店に次ぐ日本で第2号のCM提供も行っています。

また、東南アジアや太平洋諸島への海外輸出にも力を入れ、メヌマポマードの名は国外にまで広がりました。

■ 政界への情熱

友平は政界にも関心を持ちました。

昭和5年、本所区会議員となり、昭和9年には同区会議長となります。昭和8年からは、東京市(都)会議員を務め、昭和19年には同参事会員、昭和20年には警視庁警務委員長を歴任しました。昭和21年4月、埼玉県第3区に日本自由党から出馬、当選して第一次吉田内閣時の衆議院議員となりました。

■ 故郷妻沼への想い

友平は、居を東京に構えながらも、常に思いを故郷妻沼に寄せていました。

昭和32年、弥藤吾新田の居宅を妻沼町へ寄付、現在「井田記念館」として整備され、住民の文化高揚の場として活用されています。昭和35年には石造書庫を役場に寄付しました。

また、昭和39年、私財1億円を拠出して「財団法人井田育



英会」を設立。郷里の後輩の育英に力を注ぎました。現在に至るまで多くの奨学生がこの恩恵を受けています。

■ 名誉町民第一号を讃えて

こうした友平の功績を讃えて、昭和32年には、聖天山境内に井田友平先生頌徳碑が建立され、賛助員は211名を数えました。昭和33年には、郷里弥藤吾で井田報徳会を結成、氷川神社に胸像（現井田記念館）が建てられました。

昭和34年、妻沼町は「名誉町民条例」を制定し、昭和35年全会一致で友平を名誉町民第一号に認定しました。

友平は、昭和40年、脳血栓で倒れ、10月31日に76歳で没しました。

